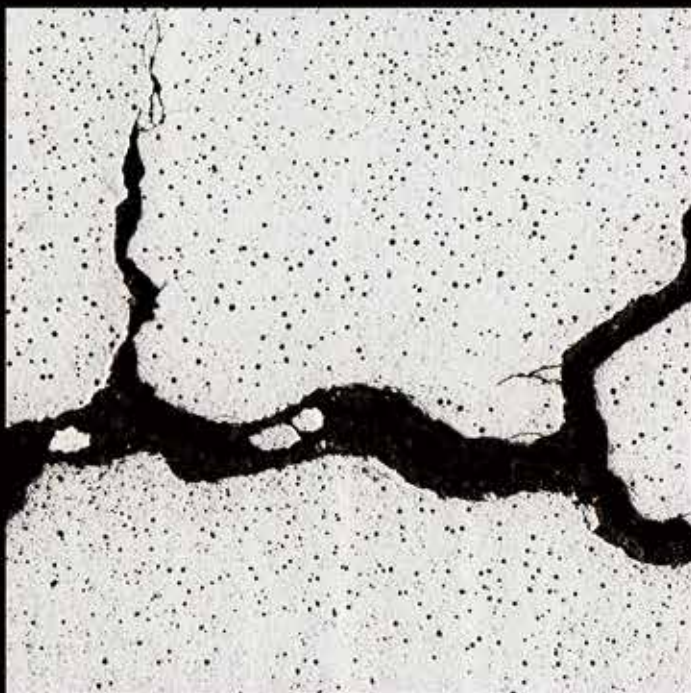


建築人

2026
7

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.745





このページの新企画「建築人x写真人」の掲載希望建築物を募集しています。
本企画は会員が手がけた建築作品を、写真家MOAIによる独自の視点と表現で、
どのように“料理”されるかを楽しんでいただく企画です。
写真家MOAIの作風は、ハイコントラストや強めの色彩によって日常を非日常へと変換します。
建築が竣工写真などとは大きく印象が異なる“新しい姿”に生まれ変わることを
楽しんで頂ける方を歓迎いたします。
皆さまが関わられた建築が、写真家の視点で新たな物語を紡いでいきます。
会員の皆さまの応募をお待ちしています。

「MOAIの独言」

日々心に引っかかった光景やモノをスマホで撮影、加工した作品
私が惹かれるのは
蓄積された時間が感じられるモノや光景
自然の造形物
今その時しかない光
固定概念にとらわれず自由に感じてください

Photographer MOAI

岩手県盛岡市出身

1985年大阪芸術大学卒

同年広告企画制作会社にカメラマンとして入社

あらゆる業種業態のクライアントの撮影に携わる

1996年フリーランスとなりPhoto Office MOAI設立

大阪を拠点に広告写真を中心に活動中

建築人

2026.07 No.745

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「マツオコーポレーション本社ビル」 2023年

第69回 大阪建築コンクール 大阪府知事賞 受賞作品
設計：ボラ設計+マツオコーポレーション+桑島由美子建築設計事務所
施工：デザインアシスト
撮影：笹倉洋平、小島康敬

ブロック製造業の本社ビルである。計画に先立ち、設計者とメーカーはブロック建築の可能性を問い直すことから着手した。ブロックそのものを「構造=仕上げ=環境装置」として多角的に活用するこの取り組みは、単独の建築行為に留まらず、地域で生産・消費され環境性能の高いブロックという素材の再評価を社会へ問う試みである。

2 MOAIの独言

4 Gallery 建築作品紹介

「神戸学院大学有瀬キャンパス 1号館」

設計：竹中工務店

施工：竹中工務店

「朝銀西信用組合 新山口支店」

設計：宮本康平建築設計事務所

施工：徳栄建設

「ベネッセスタイルケア メディカルホームグランダあやめ池駅前」

設計：藤本高志建築設計事務所

施工：エルディ

「Floating Courtyard House」

設計：マニエラ建築設計事務所

施工：西友建設

「INTERACTIVE SPACE」

設計：マニエラ建築設計事務所

施工：三幸建設

9 第18回建築人賞発表

14 近代産業都市の計画と建築

15 Topics

16 Information

18 動静レポート

22 記憶の建築

「YAC山脇美術学院ビルディング」 1974年

都心に息づく清新な複合ビルの今 / 松隈 洋

建築人 No.745 2026年7月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：松下典央

委員長：武藤優哉

編集人：昇 勇 石貫方子 岩岸克浩

荻窪伸彦 笠松哲司 河野 学

大松俊祐 中北 力 春岡須磨子

三谷勝章 村上栄司

事務局：辻本和人 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和8年7月1日発行

発行人：会長／上田茂久

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



大学創立60周年記念事業として、キャンパスの中心に複合施設と広場を整備するプロジェクト。カフェ、自習室、講義室、事務機能、研究室等を内包し、学生・教職員に加え地域にも開かれた「地域共生型キャンパス」の中核となることを目指した。講義室等の機能諸室と分散配置したオープンコモンズを組み合わせ、学びと交流が相互に補完し合う関係性を構築した。更に各コモンズを平面・断面的に接続し、活動の気配を視覚的に共有する連続的な空間として、学生のアクティビティを誘発している。M3階には「ロフトテラス」を挿入し、内部に自然光・通風を取り込むとともに、家具空調とサーカディアン照明により屋外的開放性と室内快適性の両立を図った。

所在地：兵庫県神戸市
用途：大学
竣工：2026.03
構造規模：鉄骨造
地上3階
敷地面積：141,781.31㎡
建築面積：2,750.60㎡
延床面積：6,875.99㎡
写真：野口兼史



本建物は新山口駅近くの見通しの良い立地につく金融機関の支店である。建主からは閉鎖的な建物ではなく、明るく開放的なデザインを取り入れて欲しいとの要望があった。一方で金融機関の性質上、当然ある程度のプライバシー性も求められる。そこで2階はエキスパンドメタルをZ型に加工し、ダブルスキンとして建築に纏わせることで、日射と透過性の制御を補助する役割を持たせている。日中は太陽からの光を乱反射することで外部からの視認性を適度に調整しつつも、内部からは視線が抜けるように計画した。このエキスパンドメタルと乱反射された太陽光が表層の陰影をリズムカルに織り無し、時間の経過とともに刻々と移りゆく建築ファサードの変化に一役買っている。

所在地：山口市
用途：金融機関
竣工：2023.10
構造規模：鉄骨造
地上2階
敷地面積：935.25㎡
建築面積：325.62㎡
延床面積：612.67㎡
構造設計：凡設計
写真：松村芳治



あやめ池駅前の丘陵地に建つ、総戸数73世帯・鉄筋コンクリート造5階建ての有料老人ホームである。
東西に高低差を有する敷地条件に対し、建物自体を約3mの土留め機能をもたせることで、自然地形に沿うよう計画した。
また、1階の一部を地盤に埋め込むことで平均地盤面を下げ、周辺環境への圧迫感を軽減するとともに、日影や高さ制限にも対応している。入居者が“施設”ではなく住宅やホテルのように自然体で暮らせることを目指し、素材感やスケール感、内装・設えに至るまで丁寧に検討した。
さらに、各階や廊下の仕上げを変化させ、左右非対称の計画とすることで、居室位置を感覚的に把握しやすくし、認知機能の低下にも配慮した機構としている。

所在地：奈良市
用途：有料老人ホーム
竣工：2026.02
構造設計：村田龍馬設計所
設備設計：設備設計ヤマグチ
照明計画：大光電機
造園計画：山田造園
構造規模：鉄筋コンクリート造
地上5階
敷地面積：2,971.01㎡
建築面積：1,186.05㎡
延床面積：4,388.41㎡
写真：富田英次写真事務所



敷地は三方を住宅に囲まれ、周辺からの視線や生活音に配慮しつつ落ち着いた空間の確保を重視した。

平面構成はコの字型として中庭を確保し、外部からの視線を遮りながらも光や風を取り込み、内に開いた開放的な空間をつくり出している。また、2階のボリュームを1階よりも大きくすることで、上部の箱が浮かび上がるような軽やかな印象を与え、さらに、その浮遊する箱から連続する庇と袖壁が、水平に伸びる要素と垂直に立ち上がる要素として組み合わせる。

その結果、単純な箱型にとどまらない奥行きと陰影が生まれ、表情豊かな外観となっている。

所在地：兵庫県芦屋市
用途：専用住宅
竣工：2026.05
構造規模：木造
地上2階
敷地面積：258.18㎡
建築面積：150.75㎡
延床面積：277.11㎡
写真：下村写真事務所



外観は、キャンティレバーの庇が道路と空地に面する二面へと回り込み、建物全体に水平性と浮遊感を与え、時間とともに移ろう陰影が深みのある表情を生み出している。建物は敷地形状に合わせた、街へ開かれた変形コの字型とし、中心には内部と外部の接点となる軒下テラスを設け、両者を緩やかにつなぐバッファゾーンとして機能している。アプローチ・玄関・LDKがそれぞれつながることで、面積以上の広がりを感じさせ、光や風を各空間へと導き、心地よい環境を生み出している。

所在地：兵庫県宝塚市
用途：専用住宅
竣工：2026.05
構造規模：木造
地上2階
敷地面積：308.33㎡
建築面積：154.08㎡
延床面積：240.99㎡
写真：喜多写真事務所

第18回 建築人賞 発表

主催：公益社団法人大阪府建築士会

審査総評

2017年以來、二度目の建築人賞の審査を仰せつかりました。前回お引き受けした折には、「建築人」に掲載の各作品の設計者が一堂に会して、そこでの全作品のパネル展示とお一人ずつのプレゼンテーションによる一次審査を提案したところ、快く賛成していただき、その日のうちに現地審査対象作品の選出と、引き続き応募者全員が参加する懇親会を行わせていただきました。「建築人」に掲載の数葉の写真では、選考にはいささか心細く、お手数をおかけしたわけですが、幸いにも応募者同士の交流や、選考委員とのやりとりなども含めて、総じてご好評をいただいたと感じましたので、今般、再び選考をお引き受けするに当たって、再度その形式をお願いいたしました。仮に最後の賞にまで残れなかったとしても、参加された皆さんが何か少しでもご自身の糧になるものを持ち帰っていただければ幸いと考えました。（実はその後の各地での建築賞の選考にも、この方式を取り入れさせていただいています。）

作品パネルと併せて、当日の発表を伺うと、やはり設計意図の深いところまで理解することができ、大いに助けられました。作品の所在は問わないということで、府外の各地に立つものも少なからず含まれましたので、その土地土地の風土や周辺環境などを含めて作品との関係に注目して選考に当たりました。結果、近畿圏のみならず長野県や四国の愛媛からの作品を含め、一般部門の中から7作品を選び、実地に作品の見学をさせていた

だきました。前回の時は住宅部門についても現地を訪問したのですが、コロナ禍以降、住宅は現地訪問の対象としていないとのことで、残念でしたが、今回は断念いたしました。現地を見ていないため、いささか心もとなく感じております。

全作品を通じての印象は、一般部門の作品がオフィスや商業施設に始まり、医療・福祉施設、大学、宗教施設や葬祭場、宿泊施設など非常に多岐に渡り、規模も都市的なスケールのものから一軒の店舗の小さな改修まで多様なものがあり、総じてバラエティに富んでいると感じました。最終の選に残った作品については、それぞれの選評に回すとして、その他の作品の中から印象に残ったものを挙げると、三つの切妻屋根が連続し、礼拝堂を日常的に開こうという《京都女子大学A校舎》、山の景観に呼応して屋根の流れを相互に組み合わせた《ピカソ美化学研究所駒ヶ根研修センター》、タテヨコのリズムの異なるストライプのアンサンブルが川面に映える医療コンプレックス《Nakanoshima Gross》などが周囲の景観との絶妙な応答を感じさせたほか、住宅のスケール感を持つ児童養護施設《大阪西本願寺常照園児童養護施設》、現代の湯治宿としての落ち着いた佇まいを持つ《とくなが荘 OKUZASHIKI》、サテライトオフィスと社員の保養施設を兼ねた《M-BASE IN GOSHIKIHAMA》、木造古屋を改造して研究施設とした《一般社団法人環境文化史創造研究所本部》などが、いずれも居心地の良い滞留の空間を生み

出していました。住宅部門は全体の作品数が少なかったのですが、年間最多掲載数のマニエラ建築設計事務所の作品群が他を圧倒していました。

一般部門の現地審査は、東が滋賀県から西は愛媛県までの2府2県におよび、訪問は延べ3日間に及びました。ここに選ばれたものだけでも内容は様々で、ひとつの物差しで測れるものではありませんが、顕彰によって作者（設計者だけでなく依頼主や施工者を含みます）をエンカレッジすることがもたらす社会的価値については、その意義を慮ることができると考えました。世に新たな一石を投じる、意欲的で、創意に満ちたものを選んだつもりです。これらの建築が示す、建築の将来、建築士像の将来がより豊かで実り多いものとなることを祈念しています。

最後になりましたが、一次審査の運営や、現地審査の手配や遂行、訪問先との連絡に尽力していただいた事務局の皆さんにこの場を借りて感謝を申し上げるとともに、快く訪問を受け入れていただいたクライアントの皆様にも深甚の謝意を表します。また何よりもパネルの制作をはじめ、プレゼンテーション、現地でのあらためての説明など、多くのご苦労をおかけした設計者の皆さん、どうもありがとうございました。今後の益々のご活躍をお祈りします。



建築人賞新人賞記念盾



建築人賞記念盾
グラスアーティスト 佐久間 靖 作



審査委員長 古谷誠章

早稲田大学 栄誉フェロー・名誉教授
NASCA代表

1955年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1980年 早稲田大学大学院博士前期課程修了
1986年 文化庁芸術家在外研修員として、スイスの建築家マリオ・ボッタ事務所（～1987年）
1994年 （有）ナスカ（NASCA）設立
1994年 早稲田大学理工学部助教授（～1997年）
1997年 早稲田大学理工学部教授（現・創造理工学部教授）（～2025年）
2017年 第55代 日本建築学会会長（～2019年）
2020年 早稲田大学芸術学校校長（～2024年）
2021年 東京建築士会会長（～2025年）
2024年～ 日本建築士会連合会会長
2025年 早稲田大学栄誉フェロー・名誉教授

建築人賞 立命館先端クロスバースイノベーションコモンズ／グラスルーツイノベーションセンター

設計／竹中工務店
施工／竹中工務店

建築位置／滋賀県草津市	敷地面積／590,050㎡
竣工年月／2025年5月	建築面積／2,772㎡
用途／大学（研究施設）	延床面積／4,245㎡
構造・規模／S造	写真／母倉知樹
2階建て	

【選評】
立命館びわこ・くさつキャンパスの顔となる先端的な社会連携の拠点となる施設であり、既存のキャンパスレイアウトの軸線や、周囲の風景などと呼応する45度軸を導入したことで、通勤・通学する歩行者に対し、単調で長いアプローチの道中に大屋根の生み出す陰影が、心地よい空間のリズムを生み出している。内部空間に対しても、この斜めグリッドの効用で空間に抑揚が生まれ、各所に交流や溜まりのスペースが形づくられている。素材の選択やディテールを含めてとても充実した作品である。



建築人賞 OCCHIO

設計／マニエラ建築設計事務所
施工／ケイ・アイ・エス

建築位置／兵庫県芦屋市	敷地面積／410.76㎡
竣工年月／2024年3月	建築面積／146.90㎡
用途／専用住宅	延床面積／356.14㎡
構造・規模／木造＋RC造	写真／松村芳治
地下1階、地上2階	

【選評】
芦屋の斜面地形を生かした明快なスキームが秀逸である。簡にして要を得た断面の構成によって、外部からの視線の干渉を避け、しかも人に疎外感を感じさせない開放感のある表情を持たせ、上界の内部から周囲を遠望する見晴らしを手に入れている。周辺の石積み擁壁に同調するコンクリート打放しの基壇部と、横一文字の開口を持つ軽快なホワイトボックスのコントラストも絶妙な感じである。外部に閉ざしているながら、内部の暮らしの気配をほんのりと滲み出すところに好感が持てる。



建築人賞新人賞 観櫻居

設計／宮本康平建築設計事務所＋若林広幸
施工／人見建設

建築位置／滋賀県高島市	敷地面積／436.92㎡
竣工年月／2025年4月	建築面積／135.80㎡
用途／専用住宅	延床面積／125.29㎡
構造設計／ARGO	写真／松村芳治
構造・規模／木造	
地上1階	

【選評】
琵琶湖畔に建つ木造平屋、休日などをここで過ごすための別邸である。旧街道側のアプローチは思い切って寡黙な表情として、内部に踏み入れた途端に、湖水の風景までの圧倒的な視線の抜けを感じさせる、巧妙な仕掛けとなっている。閉ざされたように見える正面だが、玄関上部に片流れで上っていく天井面や、そこに切り取られた空を僅かに予感させているところが急所になっている。この登り天井は屋内でも空間をダイナミックなものにしており、ここでも取りこまれた空が効果的だ。



建築人賞奨励賞 三井ガーデンホテル京都三条プレミア

設計／竹中工務店
施工／竹中工務店

建築位置／京都市
開業年月／2024年7月
用途／ホテル
構造・規模／鉄筋コンクリート造
地下1階、地上5階
敷地面積／2,715.89㎡
建築面積／2,096.63㎡
延床面積／10,514.18㎡



写真／母倉知樹

【選評】三条通りに北面する奥に深い敷地に立つホテルで、近隣には近代洋風建築が建ち並ぶ。秀逸だと思うのが、回廊がロの字に取り囲む二つの中庭を前後に配置して、パブリックな表とややプライベートな奥を巧みに創り出したことである。光庭としてはかなり深さがあるが、平面形とのプロポーションがよく、底面に置かれた植栽が落ち込んでくる光を受けて第二の光源となっているのも効果的である。奥行きを持ったアプローチも、京都の通り庭の翻案として、ゲストに情緒を感じさせる。

建築人賞奨励賞 京都実践倫理会館

設計／竹中工務店
施工／竹中工務店

建築位置／京都市
竣工年月／2024年12月
用途／研修所
構造・規模／RC造
地上3階
敷地面積／850.78㎡
建築面積／497.03㎡
延床面積／1,392.17㎡



写真／古川素造

【選評】毎朝会員が一堂に集まる催しが開かれるほか、折々にイベントなどに集う会員交流のための施設。ほぼ半世紀前に竣工した既存建築の、創造的改修である。一見無表情に見える外観だが、よくよく見ると朴訥として不思議な愛嬌を感じるファサードでもある。一歩中庭に足を踏み入れると、そこは天空を切り取る立体的な吹き抜けキューブで、刷新された透明感のある空間となっている。圧巻は2階の広間を中庭に繋ぐ、既存柱を撤去した広間スペースで、作者の意気込みを感じた。

建築人賞奨励賞 北小路 Bldg.

設計／プリヤデザイン一級建築士事務所
施工／Arcc

建築位置／京都市中京区
竣工年月／2025年5月
用途／事務所併用住宅
構造・規模／RC造
敷地面積／165.23㎡
建築面積／126.24㎡
延床面積／359.72㎡
写真／松村芳治
3階建



【選評】旧市街地の景観条例に沿って高さの調整された庇の重なりと、その背後にある外壁の退き、両袖に立つ小叩きの壁のアンサンブルが、この建築の端正でかつ構造的な力の流れを感じさせる顔立ちを創り出している。そこに加わる動的な光や風がもたらす表情の変化が絶妙である。機能構成は事務所と家族の住まいから成り立っているが、奥にある中庭を介して、相互が付かず離れずの関係に置かれるプランニングも奏功している。随所に凝らされたディテールや素材の妙も秀逸だった。

建築人賞奨励賞 Ceremony Hall『kanon』

設計／YIA イシウエヨシヒロ建築設計事務所
施工／建相

建築位置／愛媛県松山市
竣工年月／2025年8月
用途／葬祭場
構造・規模／木造
敷地面積／498.64㎡
建築面積／177.14㎡
延床面積／151.42㎡
写真／しんめんもく
地上1階
後藤健治



【選評】今日、故人に近い近親者のみで執り行われる家族葬が増えている。しかしこれまでの葬祭場には、それに相応しい空間は用意されていなかった。このこぢんまりとした葬儀場は、故人が人生の終わりに引き合わせた家族が、ともに一兩日を過ごし、故人の思い出を語りながら最期の別れに臨む、ひとときの住まいのような感覚があった。開放的な建築と、遠くの緑が呼応する植え込みが、この場所をさらに快適で居心地の良い場所にしている。この構想を設計者から提案したと言うのにも感心した。

建築人賞奨励賞 森との会話をたのしむ家

設計・監理／HTA デザイン事務所
施工／岡本工務店

建築位置／兵庫県宝塚市
竣工年月／2024年5月
用途／専用住宅
構造・規模／木造
2階建
敷地面積／245.60㎡
建築面積／120.94㎡
延床面積／237.98㎡



写真／母倉知樹

【選評】見晴らしの良い眺望を活かして、春夏秋冬に周囲の自然を感じられるような住まいである。プライバシーを保つために前面道路側には閉ざされた表情を持たせ、一転して内部では、森の木々を間近に感じられるよう、インナーバルコニーや、大型のガラス戸を設けて、リビングを一举に屋外へとつなぐ、大きなコントラストが生まれている。単純明快な構成ながら、階段や玄関の要所にトップライトなどからの光が届き、重層感のある豊かな内部空間が形成されている。

建築人賞奨励賞 桃山の家

設計／プリヤデザイン一級建築士事務所
施工／サカヨシ建設

建築位置／京都市伏見区
竣工年月／2024年2月
用途／事務所付長屋
構造・規模／木造
2階建
敷地面積／220.14㎡
建築面積／102.47㎡
延床面積／177.95㎡



写真／松村芳治

【選評】用途は事務所付き長屋と表記されているが、将来的に親世帯部分を別個に事務所としても利用可能となるように計画された親子世帯が住まう二世帯住宅として設計されていることから、住宅部門の作品として審査した。2階部分がやや迫り出すような断面計画で、上下階ともに極めて開放的な空間でありながら、南側からの夏の日射をうまく遮蔽し、快適な居住空間を生んでいる。高低差のある前面道路との間を緑あふれる登り庭の法面としたことも、内外を繋ぎつつ仕切る効果を生んでいる。

建築人賞佳作 - 繋 - tsunagu

設計／藤本高志建築設計事務所
施工／山佑建設

建築位置／大阪府豊中市
竣工年月／2025 年 1 月
用途／飲食店（弁当屋）
構造・規模／W 造（在来工法）
地上 2 階
延床面積／25.93㎡（改装部分）



写真／高橋菜生写真事務所

【選評】かなり廃れた小さな商店街の空き店舗を、次に繋がるようにとの願いを込めて、せめて取り壊しまでの間だけでも弁当屋として営業をしたという要望に応じて、ミニマムな改修が計画された。基本的には店頭売りだけの小さな店舗であるが、木のスノコ状の外壁の一部が、部戸のように開放され、営業中のサインともなる。軒下に生まれた路傍の小空間が、人を引き寄せ、人と人を繋ぐ空間となっている点が好ましく見える。隣接する居酒屋とも相まって、付近に人の気配を感じさせるものとなった。

建築人賞佳作 MISALIGN and LIGHT

設計／マニエラ建築設計事務所
施工／西友建設

建築位置／兵庫県西宮市
竣工年月／2024 年 12 月
用途／専用住宅
構造設計／海野構造研究所
構造・規模／RC 造
地下 1 階、地上 2 階
敷地面積／334.75㎡
建築面積／187.50㎡
延床面積／375.61㎡



写真／松村芳治

【選評】立地は良好な斜面住宅地だが、周囲には戸建だけでなくマンションなども建っており、庭への外からの視線は避けられない。しかしながらテラスを家族団欒の場にとの要望があり、テラスから空への開放感と、近隣からの視線の遮断との兼ね合いが大きな課題となった。平面的にずらして配された二重の浮き壁によって、抜けと遮蔽を見事に両立させていて、清々しさがある。テラスとリビングも見事に一体化しており、屋内に居ながらにして、テラスの開放感をも享受することができる。

建築人賞佳作 東浦の家

設計／井上久実設計室
施工／淡路工舎

建築位置／兵庫県淡路市
竣工年月／2025 年 6 月
用途／1 戸建て住宅
構造・規模／木造
平屋建て
敷地面積／1,350.18㎡
建築面積／159.80㎡
延床面積／144.87㎡



写真／富田英次

【選評】大阪湾を一望する淡路島の高台に位置する住宅である。一枚の切妻屋根に覆われているが、居室はスリットを介して分節化されており、その隙間を光や風が通り抜ける爽快な建築となっている。風は床下にも流れて室内に循環され、室内の空気環境にも良い効果をもたらしている。分節化された諸室が少しずつ雁行することで、パブリックからプライベートの空間がゆるやかに繋がって、空間にグラデーションが生まれている。周囲の島の風景にもおおらかに溶け込み静かに佇んでいる。

建築人賞佳作 イーハートブほうしん風の家

設計／井上久実設計室
施工／ヒロタ建設

建築位置／大阪市
竣工年月／2025 年 3 月
用途／障害者グループホーム
＋有料老人ホーム
構造・規模／鉄骨造
4 階建て
敷地面積／375.62㎡
建築面積／245.41㎡
延床面積／915.54㎡



写真／富田英次

【選評】同じ設計者が掲載した作品群は、住宅から研修施設、福祉施設までバラエティに富んでおり、それぞれに魅力的な特徴があったが、この知的障害者のグループホームとその両親らのための有料老人ホームの組み合わせは、現行法規の想定しない複合施設で、障害者が高齢化し、その親御さんも高齢化する現状の中で、これを成立させることの意義を社会に訴えかける作品となっていることが特筆に値する。依頼者と長く関わり続けている設計者だからこそ、初めて可能となった福祉施設の意欲作である。

建築人賞佳作 愛猫と暮らすセミコートハウス

設計／大西憲司設計工房
施工／笹原建設

建築位置／大阪府門真市
竣工年月／2025 年 6 月
用途／専用住宅
構造・規模／木造
平屋建
敷地面積／373.61㎡
建築面積／124.41㎡
延床面積／116.47㎡



写真／福澤昭嘉

【選評】不整形の敷地形状を生かして、前庭を含む 5 つの庭と居室群を巧みに納めている。変化に富んで猫でなくとも楽しく過ごせそうな空間構成である。床材や天井材なども様々で、さまざまに雰囲気異なる居場所が生まれている。メインの吐き出しの開口部だけでなく、随所にある高窓や天窓などからの光も、空間に変化を生み出している。随所に庭が配置されたことで、一軒の住まいに、離れの感覚が生まれ、内外の空間が綾織のように組み合わせられているのが秀逸である。

●目的

公益社団法人大阪府建築士会では会報誌「建築人」を毎月発行しており、2026 年 4 月には第 742 号を数えました。本会の会員にとって重要な情報提供を行うとともに、建築作品発表の機会を設け、建築技術の普及や会員の相互研鑽に寄与することを目指しています。

「建築人賞」は「建築人」の GALLERY 頁に掲載された全作品の中から特に機能性、社会性、デザイン性、先進性などにおいて優れたものを顕彰することで、建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的とし、「建築人」のプレゼンスをより高めていくことを意図して創設された賞です。

●候補作品と審査経過

会誌「建築人」2025 年 1 月から 12 月の Gallery に掲載された建築作品 36 点の中から、古谷審査委員長に選定頂きました。古谷審査委員長は第 6 回～第 10 回建築人賞の審査委員長もご担当いただき、今回で 6 回目となります。

一般部門は、本年も共同住宅から教育系施設、ホテル、オフィス、葬祭場まで多様な建物用途があり、どれもが建築主の要求と社会的課題に対し、設計者がそれ

に応えようとする強い意志が感じられました。現地審査は関西圏に留まらず、愛媛まで及ぶ審査となりました。住宅部門は現地審査を行わず、全作品書類審査となりました。

40 歳以下の若い建築士の方を対象とする『新人賞』は 4 回目を迎え、住宅部門で最終審査に 1 作品の候補が残りました。『建築人賞』は設計者だけでなく、建築主や施工者も表彰の対象となります。建築

人賞を通じて、多くの方々に建築やまちに魅力と価値を感じて頂き、建築文化の発展と人々の快適な暮らし創りに繋がることを祈念しています。

次回も引き続き古谷審査委員長によって建築人賞の選奨を行って頂く予定です。会員の皆さまには、本年も「建築人」の Gallery に多くの作品を掲載頂きますよう、お願い致します。

建築情報委員会委員長 武藤優哉

実施要項及び経過

- 対象作品 会報誌建築人 2025 年 1 月号～2025 年 12 月号「GALLERY」掲載作品 36 点
- 審査 第一次審査（36 点から 14 点選出） 第二次審査（14 点選出）
- 表彰式 2026 年度定時総会・式典 席上 日時／2026 年 5 月 20 日(水) 会場／KKR ホテル大阪 3 階
- 入賞作品

第 18 回 建 築 人 賞

一 般		住 宅	
◎ 建 築 人 賞		◎ 建 築 人 賞	
立命館先端クロスバースイノベーションcommons／ グラスルーツイノベーションセンター	2025 年 11 月号掲載	OCCHIO	2025 年 3 月号掲載
		◎ 建築人賞新人賞	
		観 櫻 居	2025 年 8 月号掲載
◎ 建築人賞奨励賞		◎ 建築人賞奨励賞	
三井ガーデンホテル京都三条プレミア 京都実践倫理会館 北小路 Bldg. Ceremony Hall 『kanon』	2025 年 2 月号掲載 2025 年 4 月号掲載 2025 年 11 月号掲載 2025 年 12 月号掲載	森との会話をたのしむ家 桃 山 の 家	2025 年 4 月号掲載 2025 年 12 月号掲載
◎ 建築人賞佳作		◎ 建築人賞佳作	
－ 繫 － tsunagu イーハトーブほうしん風の家	2025 年 6 月号掲載 2025 年 7 月号掲載	MISALIGN and LIGHT 愛猫と暮らすセミコートハウス 東 浦 の 家	2025 年 4 月号掲載 2025 年 8 月号掲載 2025 年 11 月号掲載

建 築 人 賞 設計者に賞状および記念盾を授与、建築主・施工者に賞状を授与
建築人賞新人賞 設計者に賞状および記念盾を授与、建築主・施工者に賞状を授与
建築人賞奨励賞 建築主・設計者・施工者に賞状を授与
建築人賞佳作 建築主・設計者・施工者に賞状を授与

近代産業都市の計画と建築

再産業化に対応する都市計画

京都女子大学家政学部教授
北尾靖雅、一級建築士、博士(工学)

はじめに

このたび、建築人に連載寄稿する機会を与えて頂き、大阪士会の皆様に心から感謝申し上げます。東京(関東圏)への人口、経済、産業、政治の一極集中が進むとはいえ、大阪/大坂は、「天下の台所」という経済の中心で、工業化時代には「大大阪」と称された工業の拠点で、現在においても我が国の経済・産業活動の一大拠点であることには変わりありません。私は、建築を「そこに住みたい人がいるから、その場所に住み、住み続けられるモノやコトを支える産業」と捉えています。人が住み続けるためには、物理的な建築物の構築のみならず、それを支える地域の経済・産業活動の側面も建築活動の対象に含まれると考えます。2025年の建築士会大会において大阪士会が「ソーシャルデザイン」の視点を提示されたことは、建築活動が対象とする範囲が社会的に拡張している状況に対応した提言として理解しています。

そこで、本連載では、近代産業都市(近代産業遺産を含めて)に関する考察を、時々刻々と、蓄積してゆきたいと考えています。

生産・製造拠点としての都市

近代都市計画の源流は、住む場に特化したものではなく、産業化の進展と不可分に、都市における生産活動や経済基盤の形成と深く関係してきました。なかでも、トニー・ガルニエが20世紀初頭に構想した「工業都市」は、工場地域と居住地を明確に分けた都市域として、生産の場と居住の場を分離しつつ、効率的な生産と生活環境の両立を意図したものと理解できます。

我が国では、明治政府の富国強兵と殖産興業の政策のもとで、国家の自立・存続を目的に、様々な地方計画が作成され、物理的基盤として産業育成の基盤が整備され、国家政策として樹立され、実施されました。その過程で衛生、防災、環境など持続性に関わる視点が忘れられた事は否めませんが、国力が急成長したことは事実でしょう。

本連載では、都市整備事業や都市計画がもつ産業、衛生、防災などの機能のなかで、とり

わけ国民が富を得る基盤としての産業育成の観点から都市計画や建築に関する観点の検討を行います。

居住地管理指向の都市計画

昭和の大戦後、我が国は高度経済成長のなかで、急激な都市への人口流入への対応が求められ、労働力の効率的な収容を目的として住宅供給や都市基盤整備が進められ、工業と居住が分離された都市域が形成されました(写真1)。その過程で都市計画は居住環境の管理技術としての側面を強めていったとみえています。この傾向は、高度経済成長期の転換期に策定された第3次全国総合開発計画における定住構想以降にみることができる。住環境の概念が生まれ、生活の質向上という観点からHOPE計画、コンパクトシティや景観法など、良好な生活環境の整備に関する都市計画や地域計画制度の蓄積が進められてきました。こうした制度は、高度経済成長に伴う生活環境問題の緩和に有効だったことは言うまでもありません。一方、物流拠点の整備、港湾整備などの産業基盤整備はすすみましたが、国内産業の構造変化が進行し、都市における経済活動の重心が相対的に消費やサービスへと移行したので、相対的に居住環境論が優勢化しました。高度経済成長期を含め、農地の居住地への転換にも、居住指向の都市計画の側面が現れています。農産物の自給自足は現実的には不可能と思われますが、食料の海外生産への過度な依存の見直しのなか、都市計画を農林水産業の観点から再評価し、農林水産業の再産業化も広義の都市計画の対象に含まれると考えられます。



写真1 重厚長大産業の景観

「失われた30年」の経済

1980年代後期のバブル経済を経て、生産拠

点の海外移転、いわゆる国内産業の空洞化が進行しました。これは、モノや役務の流通が国境を越えて展開するグローバル社会として対応したのですが、こうした、転換が「脱工業化」と位置づけられ、工業先進諸国では第三次産業への依存度を高める都市計画が展開されました。サービス経済化・情報化を背景に、都市は高次機能化したと捉えられましたが、グローバル経済のもとでの供給網の脆弱性が顕在化し、経済生活基盤の安定の観点から産業の国内回帰、すなわち再産業化が目指されています。半導体生産拠点の国内整備は、電子立国日本の復活に繋がる代表といえるでしょう。製造産業の衰退と長期的な経済停滞との関係は単純ではありません。一因として、デフレ経済が産業の供給力を弱めました。ところが、供給力が弱まり、需要が相対的に強くなる場合、健全とは言えないインフレの懸念が絶えず残ります。こうしたインフレを抑制し、社会活力を維持向上させるためにも、供給力を国内に保持し開発することが必要になるでしょう。つまり、都市における供給力の再整備を支えることも、都市計画の重要な役割となります。良好な居住環境を実現するために、安定した産業基盤の存在は前提条件で、ソーシャルデザインの対象には、地域産業や供給基盤も含まれるということになります。

再産業化時代の都市計画

安定的な経済成長と良好な生活環境の両立のために、製造業の国内回帰を基軸とした生産力の回復、すなわち再産業化への対応が、都市計画において不可避の課題とみえています。生産力の増強と富の蓄積を志向していた近代の都市計画や建築を、現代の視点で解釈することに意味を見いだせます。本連載では、都市の再産業化を捉えるための視点を獲得するための考察を展開しようとしています。

きたお・やすのり

京都大学博士課程を経て東京大学で博士(工学)を取得。京都工芸繊維大学大学院助手、オランダ国デルフト工科大学上席研究員を経て現職。著編書に『Collective Urban Design』(オランダ)、『ラルファースキンの建築』『コロンビアの環境建築』など。韓国、中国、英国などで著作を発表。世界の建築文化の研究と住環境の設計を行う。

今さら聞けないシリーズ

日米の小屋裏換気基準の歴史と問題点

日程：令和8年6月4日（木）

会場：ハウゼコ加西工場

参加者：14名

今回参加した(株)ハウゼコ協力による「いまさら聞けないシリーズ」第3回講習会では、「木造住宅における日米の小屋裏換気基準の歴史と問題点」について学びました。



ハウゼコ加西工場

まず換気棟の送風散水試験を見せていただいた後、木造耐久実験棟の紹介を通じて、木造住宅の湿気がもたらす、結露による野地板の腐朽、断熱材の含水、軒先からの吸水、バルコニー手摺壁周りの劣化など、実際の現場で起こっている問題が具体的に示され、屋根が受ける過酷な環境と、そこに潜む結露リスクについて改めて深く理解することができました。屋根は日射や風雨を直接受けるため、雨漏りだけでなく内部結露も発生しやすいという説明は、実務に携わる者として非常に納得感があり、小屋裏換

気的重要性を改めて痛感しました。特に、高気密・高断熱化が進む近年の住宅において印象に残ったのは、天井断熱の場合に生まれる小屋裏空間の役割です。軒先や妻壁、棟に設けた換気部、屋根勾配が緩い建物では小屋裏の容積が小さくなり、軒と棟の高低差も少なくなるため、重力換気が働きにくくなるという点は、これまで意識が薄かった部分で大きな気づきとなりました。続いて解説された日米の小屋裏換気基準の歴史では、日本の基準が1970年代に北米の基準を参考に導入されて以降、ほとんど改訂されていないという点が印象的でした。一方、アメリカでは住宅性能の変化に合わ



送風散水試験

せて基準が定期的に見直されており、その差が現在のトラブル発生率にも影響しているという指摘は非常に説得力が

勢力 靖（賛助会員委員会 委員長）



ありました。また、小屋裏換気に関する明確な規定が建築基準法には存在しないという点も驚きでした。現在の基準は品確法の「劣化の軽減」における換気面積の規定が中心で、住宅金融支援機構の「木造住宅工事仕様書」に基づく最低基準が実質的な指標になっているという話は、今後の提案や設計において押さえておくべき重要な知識だと感じました。今回の講義を通じて、屋根の結露対策には換気・気密・断熱のバランスが不可欠であり、特に鋼板屋根ではその影響が顕著に現れることを再認識しました。現場での判断や施主への説明に活かせる内容が多く、非常に有意義な学びとなりました。



工場見学



セミナー風景

Talk Relay わたしの推し

「建築士×中小企業診断士 一経営の視点で「生きた建築」を創る伴走者として」

小谷美樹（副会長）



建築士として設計や監理に携わる皆様、日々の業務において、お施主様の想いを形にする喜びに進進されていることと存じます。私は長い社会人生活の中で、建築士という業務上不可欠な資格を軸としながら、2024年に新たな「人生の軸」となる資格を取得しました。それが、私の「推し」である「中小企業診断士」です。

皆様は中小企業診断士という資格をご存知でしょうか。これは経済産業省の中小企業庁が認定する経営コンサルティングの国家資格で、「日本のMBA」とも称されます。なぜ建築士である私がこの資格を手にとったのか。それは、建築もまた大きな経済活動の一部であり、建築計画を動かすには、お施主様の家計や法人の経営状態と切り離すことができないからです。

資金が動く際、家計であればファイナンシャルプランナー、税務であれば税理士、法律で

あれば弁護士といった専門家がいます。しかし、「この会社は今、投資をして建築すべきか」という経営判断に寄り添い、建設後の運営までを見据えたトータルなアドバイスを行えるのが、中小企業診断士の強みです。日本にある企業の約99%は中小企業です。これから企業の建築や街づくりにおいて、資金調達から完成後の事業計画まで長期的な目線で寄り添う「伴走者」がいることは、企業であるお施主様にとって大きな安心に繋がります。大阪府建築士会でも、この「建築士×診断士」の相乗効果に注目しています。これまで、補助金を活用したセミナーや、AI活用による老舗旅館再生のワークショップなど、両者の知見を融合させる試みを行ってきました。さらに2026年度からは、一級建築士以外の専門資格を持つ方々とも手を取り合う「プラスライセンス委員会」が創設されました。多様な資格者が共に活動することで、建築を取り

巻く経済の発展と社会貢献を目指す新しいステージが始まろうとしています。

中小企業診断士は、決して遠い存在ではありません。皆様のすぐ身近にあります。設計した建築にお施主様の事業という命を吹き込み、「生きた建築」として膨らませていくために、ぜひ診断士をビジネスパートナーとして活用してみてください。お施主様と同じ夢を見ながら、共にその実現へ臨む——。そんな新しい建築士の姿を、一緒に描いてみませんか。



知らなきゃ損!? 補助金セミナー風景

建築士会からのお知らせ

2026年版会員名簿の配布について

本年度も本会会員名簿の配布(無料)は、希望者による申込制とさせていただきます。建築人8月号に同封のうえ発送いたしますので、ご希望の方は7月15日(水)までに下記QRコードもしくは本会事務局へメールかFaxにてお名前と会員番号をご連絡ください。

e-mail: info@aba-osakafu.or.jp
FAX: 06-6943-7103



会報誌申込QR

既存住宅状況調査技術者講習

新規講習7/29、10/28

更新講習9/15、11/12、2/19

CPD新規5単位、更新2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみに認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。令和5年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。

▼新規講習(DVD)

日時 7/29(水)、10/28(水)
9:30~17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込21,450円
郵送申込22,000円

▼更新講習(DVD)

日時 9/15(火)、11/12(木)、2/19(金)
13:30~17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込17,000円
郵送申込17,600円

▼申込 日本建築士会連合会HPよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。

既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(一般診断法)

8/7、10/29、11/17、1/29、2/25

CPD各4単位

本講習会は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断・改修の補助を受けることができる技術者の養成を目的としています。2026年1月にテキストの改訂があり、一般診断法の必要耐力および保有する耐力の計算方法が変更されました。過去に受講された方におかれましても本講習を再度受講され、最新の技術を業務に活用されますようご案内いたします。

日時 8/7(金)、10/29(木)、11/17(火)、
1/29(金)、2/25(木)
10:00~15:50

会場 大阪府建築健保会館

定員 80名(定員に達し次第締切)

受講料 会員5,000円 一般9,000円

テキスト代 9,900円

「2025年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」

既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(限界耐力計算法)

8/19 CPD4単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法です。なお、講習会の修了者名簿は大阪府及び府内全市町村・関係団体等に常備し、耐震診断を希望する建物所有者等からの問合せに活用します。

日時 8/19(水) 10:00~15:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 会員6,000円 一般8,000円

テキスト代 4,000円

「大阪府 木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル」(2023年10月改訂版)

令和8年度

第13期大阪府ヘリテージマネージャー育成講座(全10日間)

8/29、9/12、10/10、10/24、11/14、11/21、12/5、12/19、1/16、1/30

CPD1日4単位予定

本講座は、文化庁の補助を受け、大阪府のさらなる歴史文化遺産を発見し、既に指定されている文化財建造物や登録文化財等の活用と保存を推進し、まちづくりに活かす能力を持った人材“ヘリテージマネージャー”を育成することを目的に行う講習会です。全10日間の講座(講義時間数は例年通り合計40単位)で歴史、修復技術、実測実習、保存活用などの基礎を学びます。

日程(予定) 8/29、9/12、10/10、10/24、11/14、11/21、12/5、12/19、1/16、1/30

時間 13:00~17:00

(12/19は地域講座10:00~17:00)

定員(地域講座を除く) 24名(申込先着順)

受講料 会員40,000円

一般48,000円

地域講座のみ7,200円

7月6日(月)10時より受付開始予定。申込みは本会ホームページからWEB申込みしてください。

※地域講座は他府県のヘリテージマネージャーが受講可。

令和8年度 建築士定期講習

9/16、10/16、11/19、12/11、1/27、2/10、3/24

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和5年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼日程・会場・定員

9/16(水)	大阪府建築健保会館	70名
※10/16(金)	大阪府建築健保会館	70名
11/19(木)	大阪府建築健保会館	70名
※12/11(金)	大阪府建築健保会館	70名



Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。
http://www.aba-osakafu.or.jp/ メール info@aba-osakafu.or.jp
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

1/27 (水) (一社)大阪府建築士事務所協会 会議室 20名
※2/10 (水) 大阪府建築健保会館 70名
3/24 (水) 大阪府建築健保会館 70名
上記すべてDVD講習です。
※の日程：大阪府建築士会が運営
※以外の日程：大阪府建築士事務所協会が運営
注) 各回定員に達し次第、受付を終了します。
時間 9:15～17:00 (各講習日共)
受講料 12,980円 (消費税含。事前入金)
申込 建築技術教育普及センターHPより

令和8年度監理技術者講習

9/18、11/11、1/13、3/19 CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、実務に役立つ情報を提供いたします。

日時 9/18 (金)、11/11 (水)、1/13 (水)、
3/19 (金)
各8:55～17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室
定員 各回30名 (定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円
申込 日本建築士会連合会HPより

もう一度学ぶ パーテーションの基本

7/24 CPD2単位予定

オフィスや病院、学校など、あらゆる施設で目にする事が多いパーテーションですが、端部の納まりやLGS壁との取り合いなど、設計上で気になる点が多々あると思います。そこで今回は、施工方法から最近のトレンド製品まで、パーテーションの基本を学んでいただける機会をご用意しました。お時間のある方はショールーム見学にもぜひご参加ください。

日時 7/24 (金)

①ショールーム見学 15:00～16:45
(集合14:50)

②CPD講習 17:00～18:30
(集合16:50)

会場 小松ウオール工業 大阪ショールーム
参加費 会員1,000円 一般2,000円
定員 30名

第4回 賛助会員と会員建築士の親睦を図る 納涼・懇親会 交流から生まれる新しい価値 8/7

本会会員の皆様と賛助会員の皆様に何をしている会社、何を作っている会社、何を売っている会社などのアピールをしてもらいます。情報交換をフランクに行えるよう親睦懇親会という形式で企画させていただきました。是非お気軽にご参加ください。

日時 8/7 (金) 18:30～

会場 プライツンベル 御堂筋店

参加費 6,000円程度 予定

定員 50名

その他のお知らせ

(一社)京都府建築士会 主催 二級建築士設計製図試験 受験講習会 7/25～9/6

【基本コース 全2回】

限られた時間での作図法を学びます

日程 7/25 (土) 本年度課題の解説/作図実習
7/26 (日) 作図実習/エスキース解説を含む

時間 9:30～16:30

受講料 30,000円

会場 京都府民総合交流プラザ
京都テルサ会議室

【応用コース 全6回】

エスキースと作図実習訓練

京都府建築士会会員(建築士)による個別指導あり

日程 8/2 (日) エスキース実習/本年度解説を含む
8/9 (日) 作図実習
8/11 (火・祝) エスキース+作図：一式実習
8/23 (日) 模擬試験1
8/30 (日) エスキース実習
9/6 (日) 模擬試験2

時間 9:30～16:30

受講料 90,000円

会場 京都府民総合交流プラザ
京都テルサ会議室

詳細は京都府建築士会HPをご確認ください。

(一社)大阪府木材連合会 主催 令和8年度 設計者向け木材利用勉強会 都市木造・地域材活用の最新事例を学ぶ 8/5

講義内容

①合理的な木造建築物の設計

～コスト・耐久性・木材調達等への配慮～

講師：宮村太設計工房 主宰

株式会社ITOGEN 取締役 宮村 太 氏
滋賀県を中心に行政とも連携しながら活動されている宮村氏の取り組みから、地域材利用と調達の状況を学びます。川上から川下までつなぐネットワーク構築、調達を含めた設計・事業計画の設定、コストを抑えながら地域材を利用する工夫など、事例を交えつつ幅広い視点でお話いただきます。

②都市に安全な「木の空間」「木の建築」をつくる

講師：桜設計集団一級建築士事務所 代表

Team Timberize 理事長 安井 昇 氏
近年、木造防耐火に関わる法令等の改正等を背景に、特に都市部での木造・木質化への関心は高まっています。都市木造の防耐火設計で実績豊富な安井氏より、法令等の改正等を踏まえた実践的な都市木造の設計手法をご紹介します。木材の短所を知り、長所を伸ばす使い方についてもお話いただきます。

日時 8/5 (水) 13:00～17:30

会場 大阪木材仲買会館

対象 行政職員ならびに民間建築設計者等
詳細は(一社)大阪府木材連合会HPをご確認ください。

動静レポート

会長動静

- 5/29 大阪府建築士事務所協会設立 50 周年記念式典・記念祝賀会
- 6/12 建設専門新聞各社との意見交換会
正副会長会議、運営会議
- 6/16 日本建築士会連合会総会、理事会
建築士登録機関等連絡協議会総会
- 6/17 理事会
- 6/19 岡本名誉会長慰労会
- 6/24 近畿会長会議、近畿建築士会協議会

6 月度 理事会報告

日時 6 月 17 日 (水) 16:00 ~ 18:00
場所 本会東会議室及び WEB
出席 理事 42/47 名 監事 3/3 名

【審議・承認事項】

(1) 会計報告、入退会報告

(円)	4・5 月計	累計
収入	45,076,981	45,076,981
支出	17,328,881	17,328,881
差引	27,748,100	27,748,100

(人)	入会	退会等	4・5 月
正 会 員	36	27	1,998
準 会 員	2	1	30
特別準会員	1	0	20
賛助会員(世)	2	1	169
計	41	29	2,217

上記の当期経常増減明細と入退会を承認しました。

(2) コンバージョンガイドブックの改訂

大阪府より依頼の「コンバージョンによる住宅の利活用ガイドブック」の改訂業務の受託を承認しました。委託期間は本年度内で、改訂内容は事例追加や関係法令の改正に伴う整理等となり、ヘリテージ委員会にて担当します。

(3) 大阪市からの連携協定の依頼

大阪市天王寺区との歴史的建造物活用に関する連携協定、および大阪市都市整備局との修景事業における魅力発信等の連携協定の締結にむけて、実務調整を進めることを承認しました。

(4) SNS 運用マニュアル案

本会の公式 SNS (Facebook・YouTube 等) の運用体制や禁止事項等を定めたマニュアルを承認しました。

(5) 入会申込書の追加項目案

入会者との連携強化を目的とした、入会申込書への各地域サークル別のチェック欄の追加について、府外在住・在勤の入会者の対応方法も調整するとして承認しました。

【報告事項等】

(6) 事業執行報告

・定款第 21 条 4 項に基づき、会長、副会長、常任理事(部門長)、専務理事が事業執行報告を行いました。

・建築情報委員会は建築士支援を主軸として、SNS、HP、会報誌の運用と改善により情報発信を強化するとしました。

・連合会の古谷会長のご提案である、若手建築士の入会促進を目的とした U40 近畿ブロック建築士賞(仮称)をブロック内で検討中であるとしました。

・賛助会員のショールームを活用したセミナーや納涼会などのスケジュールを共有しました。

理事会での賛助会員 PR

本会では理事会において賛助会員企業による企業・製品紹介の時間を設けております。6 月は東洋シャッター株式会社により「避難可能止水扉」についてご紹介いただきました。



令和 8 年度第 1 回近畿建築士会協議会

近畿 2 府 4 県の建築士会で構成し、本会に事務局を置く近畿建築士会協議会の本年度第 1 回となる会長会議及び全体会議を 6 月 24 日に和歌山県で開催し、全体会議で下記の事項を協議、承認しました。

①日本建築士会連合会の令和 8・9 年度各種委員会委員推薦の担当士会と候補者

- ・法制度本委員会：和歌山
- ・教育・事業本委員会：大阪
- ・まちづくり委員会：滋賀
- ・青年委員会：京都
- ・女性委員会：大阪
- ・CPD/専攻建築士制度委員会：兵庫
- ・役員候補者選考委員会：奈良

②近畿建築祭の令和 9 年度以降の開催地

R9：兵庫、R10：大阪、R11：京都、R12：和歌山



建設専門新聞各社との意見交換会

6 月 12 日、(株)日刊建設工業新聞社大阪支社、(株)日刊建設通信新聞社関西支社、(株)建通新聞社大阪支社の記者の皆様をお招きし、本会からは上田会長他関係役員が出席しました。会長所信や組織改編、万博後の活動の展望など、本会活動について率直な意見交換を行いました。



安心・安全・快適なモノづくりをめざす

上 田 茂 久

株式会社 上田茂久・建築設計工房
大阪市北区中津1-12-3

平常も災害時も命を守る一部屋・断熱耐震を！

岡 本 森 廣

株式会社 長田建築事務所
大阪市中央区谷町9-5-28-806

澤 本 侃一郎

株式会社 K&S総合企画
大阪市西区京町堀2-2-1
(スマタビル10F)

暑中 お見舞 申し上げます

田 中 義 久

株式会社 田中都市建築事務所
(TANATOSHI DESIGN NET)
大阪市住吉区帝塚山西1-11
A-101

建築界をみんなで活性化させよう！

徳 岡 浩 二

株式会社 徳岡設計
TOKUOKA SEKKEI MYANMAR Co., LTD.(YANGON)
大阪市中央区本町橋5番14号
(オージービル本町橋3階)
大阪・東京・滋賀・九州

建築設計事務所 他

生 島 宣 幸

株式会社 日積サーベイ
大阪市中央区大手前1-4-12

大 松 敦

株式会社 日建設計
大阪市中央区瓦町3-6-5

金 峰 鐘 大

株式会社 IAO竹田設計
大阪市西区西本町1-4-1

暑中お見舞申し上げます

野 村 毅

株式会社 能勢建築構造研究所
大阪市中央区瓦町3-3-7
(瓦町KTビル)

「おもい」をデザインする

湯 浅 武 夫

株式会社 阿波設計事務所
大阪市浪速区元町2-2-12

米 井 寛

株式会社 東畑建築事務所
大阪市中央区高麗橋2-6-10

渡 邊 浩 文

公益社団法人日本建築積算協会
関西支部 支部長



For a Lively World

常務執行役員関西支店長 足立 憲治

関西支店：大阪市中央区南船場1-14-10 電話06(6265)4504
本社：東京都新宿区西新宿1-25-1 電話03(3348)1111



想いをかたちに 未来へつなぐ

取締役社長 丁野 成人

〒541-0053 大阪市中央区本町4-1-13
〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1

未来を切り拓く第一歩



有限会社 出口組

代表取締役 出口孝良

〒533-0011

大阪府大阪市東淀川区大桐2丁目5-7

TEL (06) 6815-8868

FAX (06) 6815-8929



建材・設備会社 他



• CAZARY® ORNAMENTAL HARDWARE
建築用装飾金属設計製作施工
• ALDREX アルミドレイン

株式会社 アルテック

代表取締役 加藤 節夫

大阪営業所 〒556-0006 大阪府大阪市浪速区日本橋東1-4-1
TEL 06(6644)6421(代)

<大阪市内最大規模>人気のモデルハウスが30棟!



住所 大阪市鶴見区焼野1丁目南2番

電話番号 06-6915-3571

主催/ 一般財団法人 大阪住宅センター
後援/ 大阪府・大阪市・住宅金融支援機構近畿支店



花博展示場



一般社団法人

大阪電業協会

会長 上坂 隆 勇

〒530-0055

大阪市北区野崎町9番8号 永楽ニッセイビル

TEL(06)6363-4077 FAX(06)6363-4079

ホームページ <https://www.osdenkyo.or.jp/>

荷物用エレベーターは
クマリフト

荷物用 / 人荷用エレベーター (マルチベアー)
小荷物専用昇降機 (コンパクトベアー)
販売 / 保守 (メンテナンス) / リニューアル

業務用エレベーターメーカー



クマリフト株式会社
本社：大阪市西区京町堀1-12-20
電話：06-6445-6700
<https://www.kumariift.co.jp> ※納期情報を公開中



建築・インテリア・土木・造園
建設のすべては、修成で学ぶ

学校法人 修成学園
修成建設専門学校

理事長 山下 裕貴

〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目19番30号
TEL.06-6474-1644

建築士・宅建士・施工管理技士 資格指導のエキスパート

 総合資格学院

梅田校 大阪市北区堂山町3-3 日本生命梅田ビル8F TEL.06-4709-8111
京橋校 大阪市都島区東野田町4-6-23 ニッセイ京橋ビル1F TEL.06-6882-8211
なんば校 大阪市中央区難波4-1-15 近鉄難波ビル5F TEL.06-6648-5511
堺校 堺市堺区中瓦町1丁-4-21 和建堺東ビル2F TEL.072-222-9311

スクールサイト www.shikaku.co.jp [総合資格](#) [検索](#)

環境にやさしい、ペーパーリングを使った
卓上ECOカレンダー CHUWA 中和印刷紙器株式会社
名入れなしタイプ  中和のペーパーリング 名入れありタイプ
＼詳しくはこちら！／    
〒640-8225 和歌山市久保丁4丁目53 TEL.(073)431-4411 FAX.(073)431-8188



一般社団法人
日本建築材料協会
JAPAN BUILDING MATERIALS ASSOCIATION

会長 松本 将

本部 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-4-23 撞木橋ビル4F
TEL 06-6443-0345 FAX 06-6443-0348
支部 関東・中部・中国・四国・九州
<https://www.kenzai.or.jp>



安心と信頼を共に創るパートナー
一般財団法人

日本建築総合試験所

理事長 川瀬 博

〒565-0873 吹田市藤白台5-8-1
TEL 06-6872-0391 FAX 06-6872-0784
<https://www.gbrc.or.jp>

学校法人 福田学園

OCT 大阪工業技術専門学校
OHSU 大阪保健医療大学
OCR 大阪リハビリテーション専門学校

理事長 福田 益和

〒530-0043 大阪市北区天満1-9-27
TEL 06-6352-0093 FAX 06-6352-5995
URL <https://www.fukuda.ac.jp>



代表取締役
社長

森 村 泰 明

E-mail: morimura@morison.co.jp

各種SNSアカウント



森村金属株式会社

<https://www.morison.co.jp>
〒578-0912 大阪府東大阪市角田1丁目8番1号
TEL (072) 962-7321(代) FAX (072) 965-6954

アルミニウム建築材料 アルミニウム総合商社



安田株式会社

代表取締役社長 安田 誠

〒542-0081 大阪市中央区南船場1-11-9 長堀安田ビル7F
電話 06 (6251) 7091 FAX 06 (6262) 3629

本社 大阪
札幌 北関東 東京 名古屋 大阪 福岡

都心に息づく清新な複合ビルは今

YAC山脇美術学院ビルディング 一九七四年

文・写真 松隈 洋〔神奈川大学建築学部教授〕

東京都心にこんなに素敵な専門学校と賃貸オフィスの複合ビルを吉村順三が手がけていたのか、と驚かされた。これまで展覧会などを通して吉村建築に繰り返し接してきたにもかかわらず、その存在を知らなかったのである。二〇二六年六月十一日、幸いにも見学する機会があり、活き活きと現役で使われているその姿に触れることができた。場所は東京都千代田区九段南、JR中央線市ヶ谷駅から徒歩二分、靖国通りに面する

この複合ビルの建主である学校法人山脇美術専門学院の歴史は古い。今からちょうど百年前の一九二六年、フランスの本格的な服飾美術を学ぶべく単身パリへ渡った山脇敏子（二八八七〜一九六〇年）が、二年間の修行を終えて帰国し、一九二九年、洋裁手芸の技術を教えるために東京銀座に開設した山脇洋裁学院に始まるという。残された資料によれば、創立期の講師陣には、杉浦非水（図案）、藤田嗣治（美学）、石井柏亭（美術史）らが名を連ね、学則の第一条には、「婦人に服装服飾並に手芸の実際的な知識技能を授けると共に生徒の品性を陶冶し情操教育を施すを以て目的とす」と謳われていた（『山脇美術専門学院八〇年の歩み「伝統そして未来へ」二〇〇九年』。日本人の九割以上が和装だった時代である。そんな中、山脇は最先端のミシンをフランスから持ち帰って実技指導を行なうなど、学院は極めて先進的な洋裁学校だった。



北側からの外観全景



靖国通り沿いの公共空間

戦時下を潜り抜け、時を経た一九五六年、現在地に、鉄筋コンクリート造、地上四階、地下一階のピロティのあるモダンな新校舎が竣工する。残念ながら設計者は不明だ。そして、一九七四年、吉村順三の設計により竣工したのが現在の複合ビルである。なぜ吉村に設計が依頼されたのか、詳しい経緯はわからない。けれども、先の資料には、一九六四年に新設されたリビング課程リビングアート科の講師として招かれた吉村が「住居製図」を教える授業風景の写真が掲載されている。また、当時の学校案内には、「リビングアートとは、生活技術あるいは生活の智慧と解釈し、

住居・服飾・食物その他食住全般にわたって実際的な知識を授け、（…）現代にふさわしい情緒豊かな、教養ある女性の育成を目ざしております。この科は、実際的な生活技術と、さらに毎日を合理的に賢く暮す智慧を持ち、女らしく優しい女性として、人生を有意義に過す基礎作りのお手伝いをしたい、という目的で設けました」とある。ここに掲げられた「リビングアート」という言葉は、吉村の建築思想と響き合う。さらに、吉村夫人でバイオリニストの大村多喜子が、一九六一年、最初の音楽教室「ソルフェージュ教室」を開校した場所に間借りした教室だった。そして、吉村順三は、一九六九年、この複合ビルに先立ち、港区南青山に音楽ホールを併設した「青山タワービル」を完成させていた。おそらく、こうした経緯から学院の信頼を得て、吉村が設計を手がけることになったのだろう。また、そのような蓄積があったからこそ、高い完成度で実現できたとはいえない。

建物全体のヴォリューム構成は明快だ。靖国通りに面する敷地北側に、地上十二階の高層オフィス棟を設け、その後方に、中庭を挟んで、北側採光の高窓のあるノコギリ屋根の教室や実習室など平屋の低層学校棟が配置されている。この配置によって、学校棟は高層棟の陰に隠れ、都心の喧噪から守られた落ち着いた静かな教育環境が実現する。また、とかく大きくなりがちなオフィス棟を上下二つのヴォリュームに分割し、地上階の下部五層は、敷地幅三十八mをフルに使うSRC造とする一方、上部七層は、S造で各階が幅二十八m、奥行き二十二mのコンパクトで自由な間仕切りが可能な一室空間にまとめる工夫が施された。しかも、この上下のヴォリュームの使い分けが、そのまま外観に軽快なアクセントを与えていることも見逃せない。さらに、この高層部は、敷地北側の外濠へ広がる恵まれた眺望を室内に十全に取り込むために、建物幅一杯に水平連続窓が切り取られている。このデザインは、先の青山タワービルを受け継いでおり、アルミパネルの外装や端部の鋭く強調したシャープな外観も、同じ方法が踏襲された。そして、学院の大切な顔となる街路側の正面一階には、地階へ自然光を取り込むドライエリアを間に挟んで、中庭の手前に、同じ幅十六mのガラス張りのギャラリが設けられたのである。こうして、立地条件を最大限に活かしながら、歴史と伝統のある山脇美術学院の建学精神を体現した清新な複合ビルが誕生する。実は、この建築が掲載された『新建築』一九七四年六月号の表紙を飾ったのは、前川國男の東京海上ビルディング本館であり、巻頭には、村野藤吾が改修を手がけた迎賓館が紹介されていた。時の流れは早く、東京海上は姿を消し、迎賓館は国宝となった。そんな中、竣工から半世紀、吉村の手がけた山脇美術学院は、清潔に保たれながら静かに時を重ね、多くの卒業生を送り出してきた。そして、今も、在校生と教職員、オフィスで働く人びと、街角を行き交う人びとにとって、オアシスのような存在として生き続けている。そのことの意味を一人でも多くの人と共有しておきたい。

2025年 「建築人賞」作品募集



審査委員長 古谷 誠章

早稲田大学 名誉フェロー・名誉教授
NASCA代表

1955年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1980年 早稲田大学大学院博士前期課程修了
1986年 文化庁芸術家在外研修員として、スイスの建築家マリオ・ボッタ事務所(～1987年)
1984年 (有)ナスカ(NASCA)設立
1984年 早稲田大学理工学部助教授(～1987年)
1997年 早稲田大学理工学部教授(現・創造理工学部教授)(～2025年)
2017年 第55代 日本建築学会会長(～2019年)
2020年 早稲田大学芸術学校校長(～2024年)
2021年 東京建築士会会長(～2025年)
2024年～ 日本建築士会連合会会長

「建築人Gallery」掲載作品は 『建築人賞』の候補作品です。

公益社団法人大阪府建築士会は、会員サービスの一環として会報誌「建築人」を毎月発行しています。本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布し、発行部数は約3,000部です。「建築人」の誌上で「Gallery」の建築作品紹介コーナーを設け、現代建築の様相を反映できるものとして好評を博しており、毎年1月号～12月号のGalleryに掲載された作品が「建築人賞」の審査対象になります。

「建築人賞」は2009年に創設され、個人の審査委員長により選考し、表彰式は翌年5月の本会の定時総会で執り行われます。「建築人賞」「同賞新人賞」「同賞奨励賞」「同賞佳作」があり、「建築人賞」「同賞新人賞」の設計者には記念品が授与され、各賞の建築主、設計者、施工者にはそれぞれ賞状が贈られます。ぜひ本誌に皆様の建築作品の掲載をお願いいたします。



建築人賞



建築人賞新人賞



佐久間 靖 (ガラスアーティスト)

1971年 大阪府高槻市生まれ
1996年 神戸学院大学 法学部 卒業
1997年 ㈱ロクレールプロダクションガラスアーティスト 三浦啓子氏に師事
2016年 ㈱Jiku Art Creation 作品制作に従事

「建築人」Gallery 掲載要項

■ 掲載概要

1頁カラー、写真4点程度、説明文300字程度

■ 掲載事項

- ・建築主、設計者、施工者、協力会社
- ・所在地、用途、竣工年、構造規模、敷地面積、建築面積、延床面積

■ 掲載料

110,000円(本体100,000円+消費税)

※1 初回割引 88,000円(本体80,000円+消費税)

(過去10年間で設計者及び施工者がGalleryに掲載されていない場合が対象です)

※2 若手初回割引 55,000円(本体50,000円+消費税)

(※1を満たす方のうち、40歳以下かつ建築設計事務所を主宰されている方が対象です)

■ 問合せ・申込み

公益社団法人大阪府建築士会事務局 担当:母倉

e-mail: info@aba-osakafu.or.jp TEL: 06-6947-1961 FAX: 06-6943-7103



北側外観：敷地入口の正面にあたる。開口を廃してブロックの量感・質感を最大化した。



1・2階ホール：床・壁の構造ユニットに上下・水平方向に大開口を設けた。一体空間を実現することで各室が連続的につながり、社員間の連携を可能にした。